

徳島県持続可能な社会を目指した 「国際連携ネットワーク」 第1回会合

令和2年2月21日

上智大学大学院地球環境学研究科 准教授

井上直己

1

テーマ1について： キーワード

- 気候危機や生物多様性危機などによる持続不可能性
- 買い物を通じた
「10年後、20年後への投資」
- 消費者でもあり生産者でもある
「プロシューマー」
- 分散型地域社会とレジリエンス

2

テーマ1 について：

エシカル消費に係る教育の推進

- 何気ない消費活動と、気候危機、森林破壊、生物の死滅といったつながりが見えない。

→「見える化」

- 消費を通じて社会、環境、そして未来に投資をするというエシカル消費の考え方の浸透が必要。
- 一方、エシカル消費のハードルは価格。廉価品よりも割高に「見える」エシカル商品について、いかに価値づけをするか。（ストーリー付けなど）

3

- 鍵は消費者と生産者の距離の短縮と関係性の構築。

- 「モノというよりは『あなた』に支払いたい。」という関係
- 表示などによる透明性ととも、物理的・心理的な距離を縮めること

- 消費者であり生産者でもある「プロシューマー」であることの価値。

- 消費者の枠に押し込まれることにより、貨幣依存・労働市場依存が高まり、自ら「生産」する時間も不足。それにより更に貨幣依存が高まる悪循環
- 技術革新により消費者も生産者としての性格を持つことが可能に。

- 生産と消費を協働する中で関係性が生まれ、レジリエンスの高いコミュニティが生まれる。

- 地域活性化、災害対応、気候変動適応

- 集中型 → 分散型

- 例：地域支援型農業を通じたコミュニティ形成（なないろ畑など）

4

テーマ2について：国際フォーラムのテーマ

- 消費と生物多様性保全
- 食料の消費/生産と持続可能性
 - 生物多様性の損失は、気候変動に相互に影響を与えており、危機的。
 - 本年10月に中国・昆明において、生物多様性条約締約国会合（COP15）が開催。世界目標が採択予定。
 - 1月に条約事務局が公表した、目標草案に「適正かつ持続可能な消費水準の達成」がある。
 - 環境負荷の大きい食糧供給システムが気候変動・生物多様性損失を促し、それらが食糧供給に影響を与えている。
 - 食の選択を通じた地球環境の保全は注目されているトピック